

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6851949号
(P6851949)

(45) 発行日 令和3年3月31日 (2021.3.31)

(24) 登録日 令和3年3月12日 (2021.3.12)

(51) Int.Cl.	F 1
B 6 0 N 3/10 (2006.01)	B 6 0 N 3/10 A
B 6 0 N 2/90 (2018.01)	B 6 0 N 2/90

請求項の数 11 (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2017-198550 (P2017-198550)	(73) 特許権者	000005326
(22) 出願日	平成29年10月12日 (2017.10.12)		本田技研工業株式会社
(65) 公開番号	特開2019-73065 (P2019-73065A)		東京都港区南青山二丁目1番1号
(43) 公開日	令和1年5月16日 (2019.5.16)	(73) 特許権者	000220066
審査請求日	令和2年4月24日 (2020.4.24)		テイ・エス テック株式会社
			埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号
		(74) 代理人	110001379
			特許業務法人 大島特許事務所
		(72) 発明者	松本 学
			埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会
			社本田技術研究所内
		(72) 発明者	横地 信夫
			埼玉県和光市中央2丁目3番7号 山王テ
			ック株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 乗物用シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

乗物用シートであって、
シートクッションを構成するサイドフレームと、
一端が前記サイドフレームの前端に結合され、互いに左右に間隔をおいて前後に延在する一対の第1縦部と、左右の前記第1縦部の他端を互いに接続する第1横部とを備えた第1棒状部材と、
前記第1縦部それぞれの左右外方において、それぞれ前後に延在する一対の内外側板部と、前記内外側板部の前端を接続し、左右に延在する前側板部と、前記内外側板部の下縁それぞれから対向する方向に折り曲げられた一対の内外延出部とを備え、前記内外延出部それぞれにおいて対応する前記第1縦部のそれぞれに結合したブラケットと、
飲料容器を収容すべく、上方に開口した凹部を有する容器収容部材とを有し、
前記容器収容部材は左右の前記内外側板部の間に配置され、底面において、前記第1縦部の上面に結合していることを特徴とする乗物用シート。

【請求項 2】

一端が前記内外側板部の上部にそれぞれ結合され、上後方に延びる一対の第2縦部と、左右の前記第2縦部の他端を互いに接続する第2横部を備えた第2棒状部材を更に有することを特徴とする請求項1に記載の乗物用シート。

【請求項 3】

前記サイドフレームは前後に延びるサイドフレーム基部と、前記サイドフレーム基部の

10

20

前端から上方に延びるフレーム延長部を備え、

前記フレーム延長部には前記シートクッションの座面を前記サイドフレームに対して変位させるべく設けられるリンクの一端が結合され、

前記第2棒状部材は前記第2横部において前記フレーム延長部の上端に結合されていることを特徴とする請求項2に記載の乗物用シート。

【請求項4】

前記前側板部の下端には後方に延び、前記第1棒状部材の前記第1横部に結合する前延出部が設けられていることを特徴とする請求項1～請求項3のいずれか1つの項に記載の乗物用シート。

【請求項5】

前記サイドフレームは、前記シートクッションに対して内側に設けられたインナフレームと、前記シートクッションに対して外側に設けられたアウトフレームとを含み、

一方の前記第1縦部の基端は前記インナフレームの前記シートクッションに対する内側の面に結合し、

他方の前記第1縦部の基端は前記アウトフレームの前記シートクッションに対する外側の面に結合していることを特徴とする請求項1～請求項4のいずれか1つの項に記載の乗物用シート。

【請求項6】

乗員の足を載置するためのオットマンを更に備え、

前記容器収容部材は側面視で前記オットマンの少なくとも一部に重なる位置に配置されていることを特徴とする請求項1～請求項5のいずれか1つの項に記載の乗物用シート。

【請求項7】

前記サイドフレームに結合すると共に、前記サイドフレームを覆い、前記容器収容部材を受容するカバー部材貫通孔を備えたカバー部材と、

前記カバー部材貫通孔の縁部及び前記容器収容部材の開口縁部を覆う加飾部材とを備えることを特徴とする請求項1～請求項6のいずれか1つの項に記載の乗物用シート。

【請求項8】

前記カバー部材は、内側部分を構成するインナカバーと、外側部分を構成するアウトカバーとを有し、

前記インナカバーには内方に切欠かれた内側切欠部が設けられ、

前記アウトカバーには外方に切欠かれた外側切欠部が設けられ、

前記内側切欠部と前記外側切欠部とによって、前記カバー部材貫通孔が画定されていることを特徴とする請求項7に記載の乗物用シート。

【請求項9】

前記加飾部材は前記前側板部に掛け止めされ、前記前側板部に当接する突起を備えることを特徴とする請求項7又は8に記載の乗物用シート。

【請求項10】

前記カバー部材は前端下部に後方に凹む逃げ部を有していることを特徴とする請求項7～請求項9のいずれか1つの項に記載の乗物用シート。

【請求項11】

前記容器収容部材は前記凹部の底部にクッション部材を備えることを特徴とする請求項1～請求項10のいずれか1つの項に記載の乗物用シート。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、カップホルダを備えた乗物用シートに関する。

【背景技術】

【0002】

乗物用シートにおいて、上面に嵌合凹部が形成されたシートクッションと、嵌合凹部に表裏反転可能に嵌合されるクッション体とを備え、クッション体の裏面に飲料容器を収容

10

20

30

40

50

するための容器収容凹部が形成されたものが知られている（例えば、特許文献１）。クッション体がその表面が上方を向くように嵌合凹部に嵌合されたときには、クッション体の表面がシートクッションと共に座面を形成する。クッション体がその裏面が上方を向くように嵌合されたときには、容器収容凹部に飲料容器を収容することが可能となる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開平８－１２７２７９号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

10

【０００４】

しかし、特許文献１に記載のクッション体は、クッション性を備えたシートクッションに嵌合されているため、飲料容器の姿勢が不安定になり易い。

【０００５】

本発明は、以上の背景に鑑み、飲料容器を安定して保持することのできる乗物用シートを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記課題を解決するために、乗物用シート（１）であって、シートクッション（２）を構成するサイドフレーム（１１）と、一端が前記サイドフレームの前端に結合され、互いに左右に間隔をおいて前後に延在する一対の第１縦部（４５）と、左右の前記第１縦部の他端を互いに接続する第１横部（４６）とを備えた第１棒状部材（４１）と、前記第１縦部それぞれの左右外方において、それぞれ前後に延在する一対の内外側板部（４７、４８）と、前記内外側板部の前端を接続し、左右に延在する前側板部（４９）と、前記内外側板部の下縁それぞれから対向する方向に折り曲げられた一対の内外延出部（５１、５２）とを備え、前記内外延出部それぞれにおいて対応する前記第１縦部のそれぞれに結合したブラケット（４２）と、飲料容器を収容すべく、上方に開口した凹部（８）を有する容器収容部材（６０）とを有し、前記容器収容部材は左右の前記内外側板部の間に配置され、底面において、前記第１縦部の上面に結合していることを特徴とする。

20

【０００７】

この態様によれば、容器収容部材が第１棒状部材を介してサイドフレームに結合される。そのため、容器収容部材の姿勢が安定し、飲料容器を安定して保持することができる。更に、容器収容部材は内外側板部の間に配置されるため、左右側方からの荷重による飲料容器の破損を防止することができる。また、容器収容部材の前側に、前側板部が設けられるため、前方からの荷重による飲料容器の破損を防止することができる。

30

【０００８】

上記の態様において、一端が前記内外側板部の上部にそれぞれ結合され、上後方に延びる一対の第２縦部（５６）と、左右の前記第２縦部の他端を互いに接続する第２横部（５７）を備えた第２棒状部材（４３）を更に有するとよい。

【０００９】

この態様によれば、内外側板部が第２棒状部材によって接続されるため、内外側板部の左右方向に加わる荷重に対する剛性が高められる。

40

【００１０】

上記の態様において、前記サイドフレームは前後に延びるサイドフレーム基部（２６）と、前記サイドフレーム基部の前端から上方に延びるフレーム延長部（２７）を備え、前記フレーム延長部には前記シートクッションの座面を前記サイドフレームに対して変位させるべく設けられるリンク（１５）の一端が結合され、前記第２棒状部材は前記第２横部において前記フレーム延長部の上端に結合されているとよい。

【００１１】

この態様によれば、第２棒状部材はフレーム延長部においてサイドフレームに結合して

50

いる。そのため、第2棒状部材に上方から荷重が加わると、サイドフレームに荷重が伝わり、左右側板部に荷重が加わりにくくなる。そのため、左右側板部の変形を防止することができる。また、第2棒状部材はリンクが結合されたフレーム延長部に結合されているため、第2棒状部材をサイドフレームに結合させるための部材を必要とせず、構成が簡素である。

【0012】

上記の態様において、前記前側板部の下端には後方に延び、前記第1棒状部材の前記第1横部に結合する前延出部(53)が設けられているとよい。

【0013】

この態様によれば、ブラケットと第1棒状部材との結合が強固になり、ブラケットの変形がより防止される。

10

【0014】

上記の態様において、前記サイドフレームは、前記シートクッションに対して内側に設けられたインナフレーム(22)と、前記シートクッションに対して外側に設けられたアウトフレーム(21)とを含み、一方の前記第1縦部の基端は前記インナフレームの前記シートクッションに対する内側の面に結合し、他方の前記第1縦部の基端は前記アウトフレームの前記シートクッションに対する外側の面に結合しているという。

【0015】

この態様によれば、第1縦部に加わる荷重がサイドフレームの内側及び外側の側面に加わるため、サイドフレームに加わる荷重が内外どちらか一方に偏ることを防止することができる。そのため、サイドフレームの変形を防止できる。

20

【0016】

上記の態様において、乗員の足を載置するためのOTTOMAN(5)を更に備え、前記容器収容部材は側面視で前記OTTOMANの少なくとも一部に重なる位置に配置されているという。

【0017】

この態様によれば、OTTOMANが設けられた乗物用シートにおいて、容器収容部材を乗員の通行を妨げず、且つ、サイドフレームに支持させることのできる位置に配置することができる。

【0018】

30

上記の態様において、前記サイドフレームに結合すると共に前記サイドフレームを覆い、前記容器収容部材を受容するカバー部材貫通孔(108)を備えたカバー部材(6)と、前記カバー部材貫通孔の縁部及び前記容器収容部材の開口縁部を覆う加飾部材(110)とを備えるという。

【0019】

この態様によれば、カバー部材貫通孔の縁部と容器収容部材の開口縁部との隙間が加飾部材によって覆われるため、意匠性を高めることができる。

【0020】

上記の態様において、前記カバー部材は、内側部分を構成するインナカバー(72)と、外側部分を構成するアウトカバー(71)とを有し、前記インナカバーには内方に切欠かれた内側切欠部が設けられ、前記アウトカバーには外方に切欠かれた外側切欠部が設けられ、前記内側切欠部と前記外側切欠部とによって、前記カバー部材貫通孔が画定されているという。

40

【0021】

この態様によれば、カバー部材及び容器収容部材の組付が容易になる。

【0022】

上記の態様において、前記加飾部材は前記前側板部に掛け止めされ、前記前側板部に当接する突起(121)を備えるという。

【0023】

この態様によれば、加飾部材を容易に前側板部に結合させることができる。また、突起

50

が前側板部に当接することによって発生する摩擦により、加飾部材の前側板部に対する移動が規制されるため、加飾部材と前側板部との結合が強固になる。

【 0 0 2 4 】

上記の態様において、前記カバー部材は前端下部に後方に凹む逃げ部（ 9 ）を有しているといふ。

【 0 0 2 5 】

この態様によれば、乗員の足がカバー部材に当たり難くなるため、カバー部材の破損を防止することができる。

【 0 0 2 6 】

上記の態様において、前記容器収容部材は前記凹部の底部にクッション部材（ 6 5 ）を備えといふ。

10

【 0 0 2 7 】

この態様によれば、飲料容器の破損を防止することができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 8 】

上記の態様によれば、容器収容部材がサイドフレームに結合されるため、飲料容器を安定して保持することのできる乗物用シートを提供することができる。

【 0 0 2 9 】

上記の態様において、内外側板部が互いに第 2 棒状部材によって接続された態様によれば、内外側板部の左右方向に加わる荷重に対する剛性が高められる。

20

【 0 0 3 0 】

上記の態様において、第 2 棒状部材はフレーム延長部においてサイドフレームに結合した態様によれば、サイドフレームに荷重が伝わり、左右側板部の変形を防止することができる。また、第 2 棒状部材はリンクが結合されたフレーム延長部に結合されているため、第 2 棒状部材をサイドフレームに結合させるための部材を必要とせず、構成が簡素である。

【 0 0 3 1 】

上記の態様において、前延出部において第 1 棒状部材に結合した態様によれば、ブラケットと第 1 棒状部材との結合が強固になり、ブラケットの変形をより防止できる。

【 0 0 3 2 】

30

上記の態様において、第 1 縦部がサイドフレームの内側及び外側の側面に結合された態様によれば、サイドフレームに加わる荷重が内外どちらか一方に偏ることを防止することができるため、サイドフレームの変形を防止できる。

【 0 0 3 3 】

上記の態様において、容器収容部材は側面視でOTTOMANの少なくとも一部に重なる位置に配置された態様によれば、OTTOMANが設けられた乗物用シートにおいて、容器収容部材を乗員の通行を妨げず、且つ、サイドフレームに支持させることのできる位置に配置することができる。

【 0 0 3 4 】

上記の態様において、カバー部材貫通孔の縁部と容器収容部材の開口縁部との隙間を覆う加飾部材が設けられた態様によれば、意匠性を高めることができる。

40

【 0 0 3 5 】

上記の態様において、カバー部材がアウトカバー及びインナカバーによって構成される態様によれば、カバー部材及び容器収容部材の組付が容易になる。

【 0 0 3 6 】

上記の態様において、加飾部材は前側板部に掛け止めされ、前側板部に当接する突起を備えた態様によれば、

加飾部材を容易に前側板部に結合させることができ、摩擦により、加飾部材の前側板部に対する移動が規制されるため、加飾部材と前側板部との結合が強固になる。

【 0 0 3 7 】

50

上記の態様において、カバー部材が前端下部に後方に凹む逃げ部を有する態様によれば、乗員の足がカバー部材に当たり難くなるため、カバー部材の破損を防止することができる。

【0038】

上記の態様において、容器収容部材が凹部の底部にクッション部材を備える態様によれば、飲料容器の破損を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0039】

【図1】実施形態に係る乗物用シートの斜視図

【図2】乗物用シートの下部の側面図

10

【図3】乗物用シートのリクライニングカバー前端部分の拡大図

【図4】サイドフレーム、及びサブフレームの斜視図

【図5】サイドフレーム、及びサブフレームの下面図

【図6】インナカバーの斜視図

【図7】アウトカバーの斜視図

【図8】カバー部材の斜視図

【図9】加飾部材の斜視図

【図10】容器収容部材の斜視図

【図11】図3のX I - X I 断面図

【図12】図3のX I I - X I I 断面図

20

【図13】図3のX I I I - X I I I 断面図

【発明を実施するための形態】

【0040】

以下、図面を参照して、本発明に係る乗物用シートの実施形態について説明する。以下では、必要に応じて、車幅方向に関する方向として、着座した乗員に向く側をシート内側（内方）、乗員から離れる側をシート外側（外方）と記載する。

【0041】

<<全体構成>>

図1に示すように、乗物用シート1はミニバン等の自動車の2列目に配置されている。乗物用シート1は車体のフロアに公知のスライド機構を介して、前後に移動可能に支持されている。乗物用シート1は、自動車のフロアに設けられたシートクッション2と、シートクッション2の後部に支持されたシートバック3と、各シートバック3の上部に設けられたヘッドレスト4と、シートクッション2の前方に設けられたOTTOMAN5とを有している。

30

【0042】

シートバック3は、公知のリクライニング機構R（図2参照）を介して、シートクッション2の後端に回動可能に結合している。OTTOMAN5は扁平な直方体状に形成され、OTTOMAN作動機構を介して、シートクッション2に接続している。OTTOMAN5はOTTOMAN作動機構によって、シートクッション2の前方に突出して、その主面がシートクッション2の座面に概ね連続し、載置された乗員の足を支持する支持位置（図1の破線）と、支持位置よりも後方に位置し、その主面が概ね前方を向く収納位置（図1の実線）との間で変位する。

40

【0043】

シートクッション2の左右側縁には、リクライニングカバー6が設けられている。リクライニングカバー6は、シートクッション2の左右前端から左右後端にまで前後に延在し、シートクッション2のリクライニング機構Rをシート外方から覆っている。リクライニングカバー6には、OTTOMAN5を回動させるためのレバー（不図示）、シートバック3のシートクッション2に対する回動を調節するためのレバー（不図示）等が設けられている。

【0044】

50

車内側のリクライニングカバー 6 の前端にはカップホルダが設けられている。カップホルダは、ペットボトルや飲料缶等の飲料容器を収容すべく、前上方に向けて開口する収容凹部 8 を備えている。図 2 に示すように、収容凹部 8 は収納位置にあるオットマン 5 に側面視で少なくとも一部が重なるように配置されている。これにより、オットマン 5 が設けられた乗物用シート 1 において、カップホルダを設けることによって乗員の通行を妨げられ難くなる。

【 0 0 4 5 】

リクライニングカバー 6 の前端下部には、後方に凹む逃げ部 9 が設けられている。逃げ部 9 を設けることによって、乗員の足がリクライニングカバー 6 に当たり難くなる。よって、リクライニングカバー 6 が破損し難くなり、乗員の足を保護することができる。

10

【 0 0 4 6 】

< シートクッション >

図 2 に示すように、シートクッション 2 は左右一対のサイドフレーム 1 1 と、左右のサイドフレーム 1 1 それぞれ前後動及び傾動可能に結合された左右一対の可動部材 1 3 と、可動部材 1 3 に支持されたパンフレーム（不図示）と、パンフレームに支持されたパッド部材と、パッド部材を覆う表皮材とを備える。サイドフレーム 1 1 はそれぞれ前後に延在し、シートクッション 2 の左右の骨組みを構成している。左側の可動部材 1 3 は左側のサイドフレーム 1 1 に回動可能に結合したフロントリンク 1 5 及びリアリンク 1 6 のそれぞれに回動可能に結合している。右側の可動部材 1 3 も同様に右側のサイドフレーム 1 1 に結合したフロントリンク 1 5 及びリアリンク 1 6 のそれぞれに結合している。パンフレームは左右のサイドフレーム 1 1 の間に配置され、上下を向く板状をなしている。パッド部材はパンフレームの上面に設けられ、ウレタンフォーム等のクッション性を有する材料によって形成されている。表皮材は合成皮革や布地等によって形成され、パッド部材の上面に被されている。本実施形態では、可動部材 1 3 がシートバック 3 の傾動動作に連動して前後動および傾動するように構成されている。

20

【 0 0 4 7 】

サイドフレーム 1 1 は前後に延びる第 1 フレーム 2 1 と、第 1 フレーム 2 1 のシート内方に結合した第 2 フレーム 2 2 と、第 1 フレーム 2 1 のシート外方に結合した第 1 ブラケット 2 3 と、第 1 フレーム 2 1 及び第 2 フレーム 2 2 の下面に結合した第 2 ブラケット 2 4 とを有している。

30

【 0 0 4 8 】

第 1 フレーム 2 1 は前後に延びる第 1 フレーム基部 2 6 と、第 1 フレーム基部 2 6 の前端から上方に延びる第 1 延長部 2 7 とを有している。第 1 フレーム基部 2 6 は左右方向に主面を有する板状をなしている。第 1 延長部 2 7 は第 1 フレーム基部 2 6 に沿って延びる板状をなしている。第 1 延長部 2 7 には、フロントリンク 1 5 が回転可能に結合されている。第 1 延長部 2 7 の上端には第 1 支持部 2 8 が形成されている。第 1 支持部は第 1 延長部 2 7 の上端から上方に延び、シート内方に屈曲した板状をなしている。

【 0 0 4 9 】

第 1 フレーム基部 2 6 は、その後端に設けられたリクライニング機構 R を介して、シートバック 3 のフレームに結合している。第 1 フレーム基部 2 6 の後部には、掛止部 2 9 が設けられている。本実施形態では、掛止部 2 9 は環状に屈曲され、第 1 フレーム基部 2 6 の外面に溶接されたワイヤ部材によって形成されている。第 1 フレーム基部 2 6 の縁部は、シートバック 3 のフレームが通過する部分を除いて、シート内方に向かって折り曲げられている。第 1 延長部 2 7 の縁部は上端を除いて、シート内方に向かって折り曲げられている。

40

【 0 0 5 0 】

第 2 フレーム 2 2 は前後に延びる板状をなし、第 1 フレーム 2 1 の内側に配置されている。第 2 フレーム基部 3 0 は第 1 フレーム基部 2 6 に概ね左右対称に形成され、第 1 フレーム 2 1 と対応する形状をなしている。図 4 に示すように、第 2 フレーム 2 2 は前後に延びる第 2 フレーム基部 3 0 と、第 2 フレーム基部 3 0 の前端から上方に延びる第 2 延長部

50

3 1 とを備える。第 2 延長部 3 1 の上端には左右に貫通する第 1 係止孔 3 2 が設けられている。第 1 係止孔 3 2 は前後に延びる長円状をなしている。第 2 フレーム基部 3 0 及び第 2 延長部 3 1 の縁部はシート外側に向かって折り曲げられて、対応する第 1 フレーム基部 2 6 及び第 1 延長部 2 7 の縁部に当接している。これらの縁部が所定の位置において溶接されることによって、第 1 フレーム 2 1 と第 2 フレーム 2 2 とが結合している。

【 0 0 5 1 】

第 1 ブラケット 2 3 は第 1 フレーム基部 2 6 の前端下部に設けられている。第 1 ブラケット 2 3 は上下に延びる板状の幅狭部 3 3 と、幅狭部 3 3 から下方に延び、前後幅は幅狭部 3 3 より広い板状の幅広部 3 4 とを有している。幅狭部 3 3 は車幅方向を向く板状をなし、その左縁及び右縁がシート内方に延出するように折り曲げられている。その左右の延出端は第 1 フレーム基部 2 6 に沿うように前後に折り曲げられ、それぞれ第 1 フレーム基部 2 6 に溶接されている。幅広部 3 4 には、車幅方向を向く板状の幅広基部 3 4 A と、幅広基部 3 4 A の左縁、右縁及び下縁から内方に延出する幅広縁壁 3 4 B と、幅広縁壁 3 4 B の左右上端縁から内方に延びる突片 3 4 C とを備えている。突片 3 4 C の上端は第 1 フレーム基部 2 6 の下縁に溶接されている。

【 0 0 5 2 】

幅広基部 3 4 A には左右に貫通する第 2 係止孔 3 6 が設けられている。第 2 係止孔 3 6 は前後方向に延びる略方形をなしている。幅広基部 3 4 A には左右に貫通する略正形状の肉抜き孔 3 7 が設けられている。

【 0 0 5 3 】

第 2 ブラケット 2 4 はシート内外に延在し、上下方向に向く板状をなしている。第 2 ブラケット 2 4 は第 1 フレーム 2 1 及び第 2 フレーム 2 2 の前後方向における略中央において、第 1 フレーム 2 1 及び第 2 フレーム 2 2 の下面に溶接されている。第 2 ブラケット 2 4 の外縁は第 1 フレーム 2 1 のシート外方に位置している。第 2 ブラケット 2 4 の外縁には上方に延出した板状をなす係止部 3 8 が設けられている。係止部 3 8 はシート内外方向を向く板状をなしている。係止部 3 8 には、左右に貫通する第 3 係止孔 3 9 が設けられている。

【 0 0 5 4 】

< サブフレーム >

図 4 及び図 5 に示すように、サイドフレーム 1 1 の前端にはサブフレーム 4 0 が結合している。サブフレーム 4 0 は、車内側に位置するサイドフレーム 1 1 の左右側面に溶接された支持ワイヤ部材 4 1 と、支持ワイヤ部材 4 1 の上側に設けられたサブブラケット 4 2 と、サブブラケット 4 2 の上端に溶接された保護ワイヤ部材 4 3 とを有する。

【 0 0 5 5 】

支持ワイヤ部材 4 1 は円形の横断面形状を有する金属製の 1 本の丸棒を上面視でコの字状に屈曲することによって形成されている。支持ワイヤ部材 4 1 は、一端がサイドフレーム 1 1 の前端に結合され、互いに左右に間隔をおいて前後に延在する一対の第 1 縦部 4 5 と、左右の第 1 縦部 4 5 の前端を互いに接続する第 1 横部 4 6 とを備える。本実施形態では、シート外側の第 1 縦部 4 5 は、基端において幅広基部 3 4 A の車外側側面に溶接され、下方に延びて、前方に屈曲している。シート内側の第 1 縦部 4 5 は、第 2 フレーム基部 3 0 の車内側側面に溶接され、前方に延びて下方に屈曲し、更に、屈曲して前方に延びている。第 2 横部 5 7 は略水平に延びている。左右の第 1 縦部 4 5 の前部は略平行をなしている。左右の第 1 縦部 4 5 の前部と第 2 横部 5 7 とによって、略水平な支持面 S が形成されている。

【 0 0 5 6 】

サブブラケット 4 2 は折曲形成された板材によって形成されている。サブブラケット 4 2 は、2 つの第 1 縦部 4 5 それぞれのシート内側及び外側において前後に延在する左右一対の内外側板部 4 7、4 8 と、2 つの左右側板部の前端を互いに接続し、左右に延在する前側板部 4 9 とを備えている。内外側板部 4 8 はそれぞれシート内外を向く板状をなしている。前側板部 4 9 は前後を向く板状をなしている。2 つの内外側板部 4 8 は前側板部 4

10

20

30

40

50

9によって接続されて、上面視で後方に開口する略コの字状をなしている。以下、必要に応じて、内外側板部48のうち、シート内方に位置する内外側板部48を内側板部47、シート外方に位置する内外側板部48を外側板部48と記載する。

【0057】

サブブラケット42は更に、内外側板部48の下縁それぞれから対向する方向に折り曲げられた一对の内外延出部51、52と、前側板部49の下縁から後方に折り曲げられた前延出部53とを備える。シート内側の内外延出部51（以下、内延出部と記載する）は、内側板部47の下縁後部からシート外側に延びて、シート内側に位置する第1縦部45の上面に溶接されている。シート外側の内外延出部52（以下、外延出部と記載する）は、外側板部48の下縁後部からシート内側に延び、シート外側に位置する第1縦部45の上面に溶接されている。前延出部は、前側板部49の下縁から後方に延びて、第1横部46の上面に溶接されている。これによって、サブブラケット42は支持ワイヤ部材41に結合されている。内外延出部51、52及び前延出部53の3つの延出部においてサブブラケット42が第1縦部45の上面に溶接されているため、2つの延出部において溶接されている場合に比べて、サブブラケット42と支持ワイヤ部材41との結合が強固である。

10

【0058】

保護ワイヤ部材43は横断面形状を有する金属製の1本の丸棒を正面視で下方に開口する略コの字状に屈曲することによって形成されている。保護ワイヤ部材43は、一端が内側板部47及び外側板部48の上部にそれぞれ溶接され、上後方に延びる一对の第2縦部56と、左右の第2縦部56の他端を互いに接続する第2横部57を備えている。2つの第2縦部56は左右対称をなし、略平行に左右に間隔をおいて配置されている。第2横部57は略水平に、且つ、車幅方向に延在している。保護ワイヤ部材43は、第2横部57の略中央部分において第1支持部28の上面に溶接されている。

20

【0059】

<<容器収容部材>>

図12に示すように、支持ワイヤ部材41には、上側から容器収容部材60が結合している。容器収容部材60は、サブブラケット42の内側板部47及び外側板部48の間であり、前側板部49の後方に配置されている。収容凹部8は容器収容部材60において上部に開口する凹部として形成されている。容器収容部材60は樹脂によって形成され、収容凹部8に収容される飲料容器（ペットボトルや飲料缶等）に対応する上下に延びた形状をなしている。

30

【0060】

図10に示すように、容器収容部材60の底面には下方に突出する2つの係止部61が設けられている。係止部61は左右に対をなすように配置されている。係止部61はそれぞれ、正面視で略台形状をなして突出する基部61Aと、基部61Aの左右両縁から下方に突出する左右一对の壁部61Bと、壁部61Bの下端それぞれから対向する方向に突出する爪部61Cを備えている。係止部61には、基部61A及び壁部61Bによって、下方に開口し上方に凹む係止凹部61Dが形成されている。図11に示すように、第1縦部45は係止凹部61Dに収容されて、シート内側の係止部61はシート内側に位置する第1縦部45に上方から嵌合している。このとき、壁部61Bの間に第1縦部45が位置しているため、容器収容部材60の支持ワイヤ部材41に対するシート内外への移動が規制されている。また、爪部61Cはそれぞれ第1縦部45の下側に位置している。そのため、図12に示すように、爪部61Cと基部61Aとの間に第1縦部45が位置し、容器収容部材60の支持ワイヤ部材41に対する上下方向の移動が規制されている。同様に、シート外側の係止部61はシート外側に位置する第1縦部45に上方から嵌合している。これによって、容器収容部材60は底面において、支持ワイヤ部材41に対するシート内外及び上下方向の移動が規制されて、第1縦部45の上面に結合している。

40

【0061】

容器収容部材60の底面には、更に、下方に突出する突起であるストッパ62が設けら

50

れている。ストッパ 6 2 は 2 つの係止部 6 1 の前方に位置している。ストッパ 6 2 は突出方向に直交する方向の断面（横断面）が十字状をなしている。図 5 に示すように、サブブラケット 4 2 の前延出部 5 3 には第 1 横部 4 6 材の後方において上下に貫通するホルダ位置決め孔 6 3 が設けられ、ストッパ 6 2 はホルダ位置決め孔 6 3 に嵌合している。これによって、容器収容部材 6 0 の支持ワイヤ部材 4 1 に対する前後左右方向の移動が規制されると共に、容器収容部材 6 0 のサブフレーム 4 0 に対する前後左右の位置が定められている。

【 0 0 6 2 】

図 1 2 に示すように、容器収容部材 6 0 には、収容凹部 8 の底部壁面に沿って、クッション部材 6 5 が設けられている。本実施形態では、容器収容部材 6 0 は、上方に向けて開口するカップ状の下部部材 6 6 と、下部部材 6 6 の上縁に結合する硬質プラスチック製の上部部材 6 7 とを備えている。下部部材 6 6 は硬質プラスチックによって形成されたカップ状をなしている。下部部材 6 6 の凹部にはオレフィン系エラストマーによって形成されたカップ状のクッション部材 6 5 が嵌め込まれている。容器収容部材 6 0 にクッション部材 6 5 が設けられることによって、車体の振動等による飲料容器の破損を防止することができる。また、飲料容器の振動がクッション部材 6 5 によって吸収されるため、飲料等が飲料容器からこぼれ難くなる。

【 0 0 6 3 】

< < リクライニングカバー > >

リクライニングカバー 6 は、図 3 に示すように、サブフレーム 4 0 及びサイドフレーム 1 1 を外側から覆うアウトカバー 7 1 と、アウトカバー 7 1 の前部のシート内方に設けられ、サブフレーム 4 0 及びサイドフレーム 1 1 を内側から覆うインナカバー 7 2 とを有する。

【 0 0 6 4 】

アウトカバー 7 1 は、図 7 に示すように、サイドフレーム 1 1 に対応する前後に延びる板状をなしている。アウトカバー 7 1 は、リクライニングカバー 6 の外側面を構成する外板部 7 4 と、外板部 7 4 の上縁からシート内方に延出する上板部 7 5 と、外板部 7 4 の後縁からシート内方に延出する後板部 7 6 と、外板部 7 4 の前縁からシート内方に延出する前板部 7 7 と、外板部 7 4 の下縁からシート内方に延出する下板部 7 8 とを有している。

【 0 0 6 5 】

外板部 7 4 の内側の側面には、内方に突出する第 1 結合部 8 0、第 2 結合部 8 1 が設けられている。第 1 結合部は外板部 7 4 の前後方向略中央部において板状に突出している。第 1 結合部 8 0 はクリップが装着されて、第 2 ブラケット 2 4 の第 3 係止孔 3 9 に嵌合されている。第 2 結合部 8 1 は外板部 7 4 の前後方向における後部に位置し、第 1 フレーム 2 1 の外面に設けられた掛止部 2 9 に掛止される。これらによって、アウトカバー 7 1 は第 1 フレーム 2 1 に結合している。

【 0 0 6 6 】

インナカバー 7 2 は、図 8 に示すように、アウトカバー 7 1 の前部に対応する形状をなし、サイドフレーム 1 1 の内側に配置されている。インナカバー 7 2 は、左右に向く主面を有する板状の内板部 8 4 と、内板部 8 4 の上縁から外方に延出する上板部 8 5 と、内板部 8 4 の前縁から外方に延出する前板部 8 7 と、内板部 8 4 の下縁からシート外方に延出する下板部 8 8 とを備えている。

【 0 0 6 7 】

インナカバー 7 2 の内板部 8 4 のシート外側の側面には、左方に突出する第 3 結合部 9 0 及び第 4 結合部 9 1 が設けられている。第 3 結合部 9 0 は第 1 結合部 8 0 と同様にクリップが装着されて、第 2 フレーム 2 2 の上部の第 1 係止孔 3 2 に嵌合している。第 4 結合部 9 1 は第 1 結合部 8 0 と同様にクリップが装着されて、第 1 ブラケット 2 3 の第 2 係止孔 3 6 に嵌合している。これらの嵌合によって、インナカバー 7 2 は第 2 フレーム 2 2 に結合している。

【 0 0 6 8 】

図6に示すように、アウトカバー71の上板部75の前端及び前板部77の下端にはそれぞれ所定の係止爪94、95が設けられている。インナカバー72の上板部85の前端及び前板部87の下端にはそれぞれ係止爪94、95に係合する係止孔96、97が設けられている。係止爪94、95がそれぞれ対応する係止孔96、97に係合ことによって、アウトカバー71の上板部75とインナカバー72の上板部85とが結合し、アウトカバー71の前板部77とインナカバー72の前板部87とが結合する。

【0069】

アウトカバー71の前板部77にはシート外側に向けて切欠かれた外側切欠部100が設けられている。外側切欠部100のシート外方の縁部には、シート内方に向かって板状に延出する2つの延出部101が設けられている。2つの延出部101にはそれぞれ、複数の係止孔102が設けられている。

10

【0070】

図7に示すように、インナカバー72の前板部87にはシート内側に向けて切欠かれた内側切欠部105が設けられている。内側切欠部105のシート内方の縁部には、外側切欠部100と同様に、シート外側に延出する2つの延出部106が設けられている。2つの延出部106にはそれぞれ、複数の係止孔107が設けられている。内側切欠部105及び外側切欠部100によってリクライニングカバー6には貫通孔108が画定されている。貫通孔108には容器収容部材60が収容されている。本実施形態では、内側切欠部105と外側切欠部100とは略左右対称をなしている。

20

【0071】

< <加飾部材> >

容器収容部材60の開口縁部及び貫通孔108の縁部の間には、加飾部材110が設けられている。図9に示すように、加飾部材110は、下方に開口する逆U字状の遮蔽部111と、遮蔽部111の下端を接続し、前後方向を向く板状の加飾部材板部112と、加飾部材板部の後側に間隔をおいて、左右方向（横方向）に延在する加飾部材横部113とを備えている。

【0072】

図3に示すように、遮蔽部111は容器収容部材60の開口の左右縁及び後縁と、それらに対応する貫通孔108の左右縁及び後縁に沿う枠状をなし、容器収容部材60の開口の左右縁及び後縁と貫通孔108の左右縁及び後縁を前側から覆っている。これによって、貫通孔108の縁部と容器収容部材60の開口縁部との隙間が露出せず、意匠性が高められる。

30

【0073】

図9及び図13に示すように、遮蔽部111はその延在方向に沿って、容器収容部材60の左右縁及び後縁に向かって開口する溝114と、インナカバー72の延出部101及びアウトカバー71の延出部106に向かって突出する複数の係止爪115とを有している。溝114には容器収容部材60の開口縁部が変位可能に受容されている。各係止爪115が各延出部の係止孔102、107に挿入されることによって、加飾部材110がインナカバー72及びアウトカバー71に結合している。容器収容部材60の開口縁部が溝114に変位可能に受容されているため、容器収容部材60とリクライニングカバー6との間の相対位置のずれに応じて、加飾部材110と容器収容部材60とを相対的に変位させることができ、ずれを補償することができる。

40

【0074】

図11及び図12に示すように、加飾部材板部112はサブブラケット42の前側板部49に沿って配置されている。図4に示すように、前側板部49は前方を向く前側板部本体116と、前側板部本体116の前側に間隔をおいて上方に延出する左右一対の係止片117と、係止片117の前側に間隔をおいて下方に延出する抜止片118とを備えている。抜止片118は、正面視で2つの係止片117の間に略中間に位置している。図11に示すように、2つの係止片117の上端は、抜止片118の下端よりも上側に位置している。係止片117の下部には、上後方を向く肩面119が形成されている。

50

【 0 0 7 5 】

図 9 に示すように、加飾部材横部 1 1 3 は、前後方向を向く主面を有する板状をなし、左右両端において後方に屈曲し、加飾部材板部 1 1 2 に接続している。図 1 2 に示すように、加飾部材横部 1 1 3 は、2 つの係止片 1 1 7 と前側板部本体 1 1 6 との間に配置されている。これによって、加飾部材 1 1 0 は前側板部本体 1 1 6 に掛け止めされている。加飾部材横部 1 1 3 の下端は肩面 1 1 9 に当接し、加飾部材横部 1 1 3 は肩面 1 1 9 によって支持されている。これによって、肩面 1 1 9 によって加飾部材 1 1 0 の下方への移動が規制されている。図 1 1 に示すように、2 つの係止片 1 1 7 及び抜止片 1 1 8 は、上面視で加飾部材横部 1 1 3 の前方に位置している。

【 0 0 7 6 】

図 9 に示すように、加飾部材板部 1 1 2 には更に、左右に対をなして後方に突出する突起 1 2 1 が設けられている。突起 1 2 1 は突端において前側板部本体 1 1 6 の前面に当接している。更に、加飾部材横部 1 1 3 の後面が 2 つの係止片 1 1 7 に当接している。これによって、加飾部材 1 1 0 の前後方向への移動が規制されると共に、加飾部材 1 1 0 と前側板部 4 9 との間の摩擦によって、加飾部材 1 1 0 の上下方向の移動が規制されて、加飾部材 1 1 0 と前側板部 4 9 との結合がより強固になる。

【 0 0 7 7 】

< < キャップ部材 > >

加飾部材板部 1 1 2 の前側には、樹脂製のキャップ部材 1 2 5 が設けられている。キャップ部材 1 2 5 は、加飾部材板部 1 1 2 に対応する略方形な板状をなしている。加飾部材板部 1 1 2 には複数の係止孔 1 2 6 が設けられ、キャップ部材 1 2 5 の後面には後方に突出する複数の係止爪 1 2 7 が設けられている。係止孔 1 2 6 に係止爪 1 2 7 が係合することによって、キャップ部材 1 2 5 は加飾部材板部 1 1 2 の前側に結合されている。

【 0 0 7 8 】

図 1 2 に示すように、前側板部 4 9 の上縁は後方に向かって折り曲げられている。キャップ部材 1 2 5 の上縁は前側板部 4 9 の上縁を覆い、前側板部 4 9 の上部背面にまで延びている。前側板部 4 9 の上縁が後方に折り曲げられることによって、容器収容部材 6 0 に収容された飲料容器が前方に倒れ難くなる。金属製の前側板部 4 9 の上縁を樹脂製のキャップ部材 1 2 5 で覆うことによって、飲料容器の破損が防止されると共に、意匠性を高めることができる。

【 0 0 7 9 】

次に、リクライニングカバー 6 の組付、及び、加飾部材 1 1 0 及びキャップ部材 1 2 5 の組付について説明する。第 1 フレーム 2 1 に容器収容部材 6 0 を結合させた後、インナカバー 7 2 の第 3 結合部 9 0 にクリップを装着し、第 2 フレーム 2 2 の上部の第 1 係止孔 3 2 に嵌合させ、第 4 結合部 9 1 にクリップを装着し、第 1 ブラケット 2 3 の第 2 係止孔 3 6 に嵌合させて、インナカバー 7 2 をサイドフレーム 1 1 に結合させる。アウトカバー 7 1 の第 1 結合部 8 0 にクリップを装着し、第 2 ブラケット 2 4 の第 3 係止孔 3 9 に嵌合させ、第 2 結合部 8 1 を第 1 フレーム 2 1 の掛止部 2 9 に掛止する。これによって、アウトカバー 7 1 がサイドフレーム 1 1 に結合し、リクライニングカバー 6 がサイドフレーム 1 1 に組み付けられる。このように、リクライニングカバー 6 をインナカバー 7 2 及びアウトカバー 7 1 の 2 つの部材によって構成することによって、リクライニングカバー 6 を容易にサイドフレーム 1 1 に結合させることができる。

【 0 0 8 0 】

このとき、内側切欠部 1 0 5 と外側切欠部 1 0 0 とによって、リクライニングカバー 6 に貫通孔 1 0 8 が形成される。このように、貫通孔 1 0 8 をインナカバー 7 2 及びアウトカバー 7 1 の切欠部によって構成することによって、容器収容部材 6 0 の開口を大きくすることができる。開口を大きくすることによって、飲料容器がより収容し易くなる。

【 0 0 8 1 】

次に、加飾部材 1 1 0 を前側板部 4 9 に結合させる。まず、加飾部材横部 1 1 3 を抜止片 1 1 8 と係止片 1 1 7 の間を通過させて、係止片 1 1 7 と前側板部本体 1 1 6 との間に

配置する。このとき、突起 1 2 1 が前側板部本体 1 1 6 に当接し、加飾部材横部 1 1 3 が係止片 1 1 7 に当接して、加飾部材の前側板部 4 9 に対する移動が規制されるため、加飾部材 1 1 0 は前側板部 4 9 に結合している。更に、遮蔽部 1 1 1 の係止爪 1 1 5 を貫通孔 1 0 8 の縁部に設けられた係止孔 1 0 2、1 0 7 に挿入し、溝 1 1 4 に容器収容部材 6 0 の開口縁を嵌め込むことによって、加飾部材 1 1 0 の組付が完了する。このとき、抜止片 1 1 8 が加飾部材横部 1 1 3 の前方に位置し、加飾部材 1 1 0 の前側板部 4 9 からの脱落を防止している。その後、キャップ部材 1 2 5 の係止爪 1 2 7 を加飾部材 1 1 0 の係止孔 1 2 6 に係合させることによって、キャップ部材 1 2 5 が加飾部材 1 1 0 に結合し、組付が完了する。

【 0 0 8 2 】

10

次に、このように構成した乗物用シート 1 の効果について説明する。容器収容部材 6 0 は支持ワイヤ部材 4 1 (第 1 棒状部材) に係止され、支持ワイヤ部材 4 1 (第 1 棒状部材) はサイドフレーム 1 1 に溶接されている。そのため、容器収容部材 6 0 がサイドフレーム 1 1 に第 1 棒状部材を介して結合し、容器収容部材 6 0 の姿勢が安定する。そのため、飲料容器を安定して保持することが可能となる。

【 0 0 8 3 】

容器収容部材 6 0 は内外側板部 4 8 の間に配置されるため、左右側方からの荷重による飲料容器の破損を防止することができる。内外側板部 4 8 が保護ワイヤ部材 4 3 (第 2 棒状部材) によって接続されるため内外側板部 4 8 の左右方向に加わる荷重に対する剛性が高められ、より飲料容器の破損を防止することができる。また、容器収容部材 6 0 の前側に、前側板部 4 9 が設けられるため、前方からの荷重による飲料容器の破損が防止されている。

20

【 0 0 8 4 】

保護ワイヤ部材 4 3 は第 1 延長部 2 7、より詳細には第 1 支持部 2 8 の上面に結合している。そのため、保護ワイヤ部材 4 3 はサイドフレーム 1 1 によって下方から支持されている。保護ワイヤ部材 4 3 に上方からの荷重が加わると、サイドフレーム 1 1 に分散されるため、内外側板部 4 7、4 8 に荷重が伝わり難くなる。よって、内外側板部 4 7、4 8 の変形を防止することができる。また、第 1 延長部 2 7 はフロントリンク 1 5 を結合させるために予め形成された部分であるため、保護ワイヤ部材 4 3 をサイドフレーム 1 1 に結合させるための部材を必要とせず、構成を簡素にすることができる。

30

【 0 0 8 5 】

第 1 縦部 4 5 はサイドフレーム 1 1 の内側及び外側に結合されている。そのため、サイドフレーム 1 1 に加わる上方からの荷重は、サイドフレーム 1 1 の内側及び外側に概ね均等に加わる。そのため、第 1 縦部 4 5 がサイドフレーム 1 1 の内側又は外側のみに結合されている場合に比べて、サイドフレーム 1 1 に加わる荷重が内外どちらか一方に偏ることがなく、サイドフレーム 1 1 の変形を防止することができる。

【 0 0 8 6 】

以上で具体的実施形態の説明を終えるが、本発明は上記実施形態に限定されることなく幅広く変形実施することができる。本実施形態では、容器収容部材 6 0 はサイドフレーム 1 1 の前端の前方に配置されていたが、サイドフレーム 1 1 の後方、又は、左右外方に配置されていてもよい。この場合であっても、容器収容部材 6 0 は、サブフレーム 4 0 を介して、サイドフレーム 1 1 に結合されるとよい。

40

【 符号の説明 】

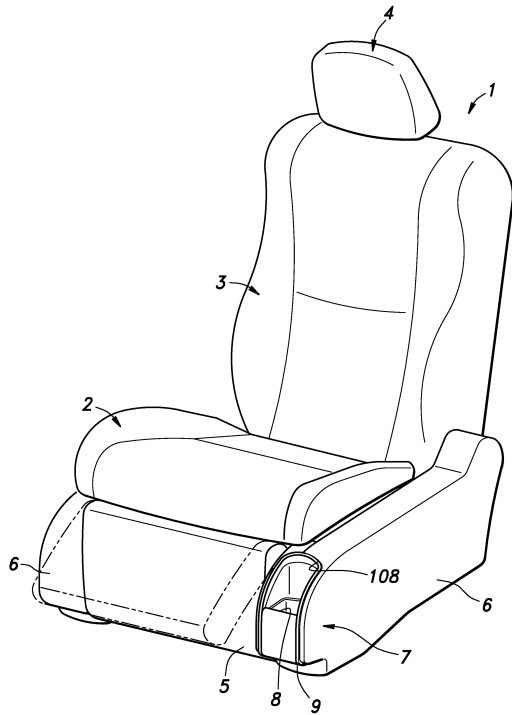
【 0 0 8 7 】

- 1 : 乗物用シート
- 2 : シートクッション
- 5 : オットマン
- 6 : リクライニングカバー (カバー部材)
- 8 : 収容凹部
- 9 : 逃げ部

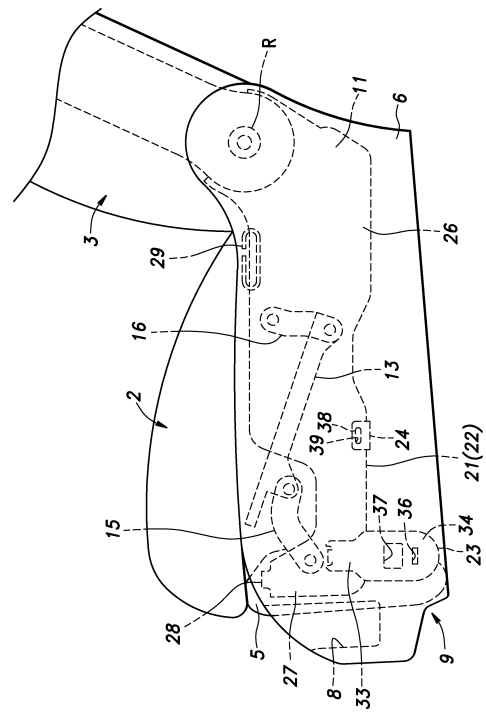
50

1 1	: サイドフレーム	
1 5	: フロントリンク	
2 1	: 第 1 フレーム (アウタフレーム)	
2 2	: 第 2 フレーム (インナフレーム)	
2 6	: 第 1 フレーム基部 (サイドフレーム基部)	
2 7	: 第 1 延長部 (フレーム延長部)	
4 1	: 支持ワイヤ部材 (第 1 棒状部材)	
4 2	: サブブラケット (ブラケット)	
4 3	: 保護ワイヤ部材 (第 2 棒状部材)	
4 5	: 第 1 縦部	10
4 6	: 第 1 横部	
4 7	: 内側板部	
4 8	: 外側板部	
4 9	: 前側板	
5 1	: 内延出部	
5 2	: 外延出部	
5 3	: 前延出部	
5 6	: 第 2 縦部	
5 7	: 第 2 横部	
6 0	: 容器収容部材	20
6 5	: クッション部材	
6 6	: 下部部材	
6 7	: 上部部材	
7 1	: アウタカバー	
7 2	: インナカバー	
1 0 8	: 貫通孔 (カバー部材貫通孔)	
1 1 0	: 加飾部材	
1 2 1	: 突起	

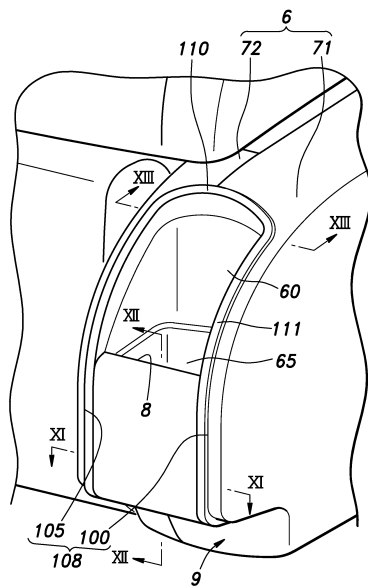
【図 1】



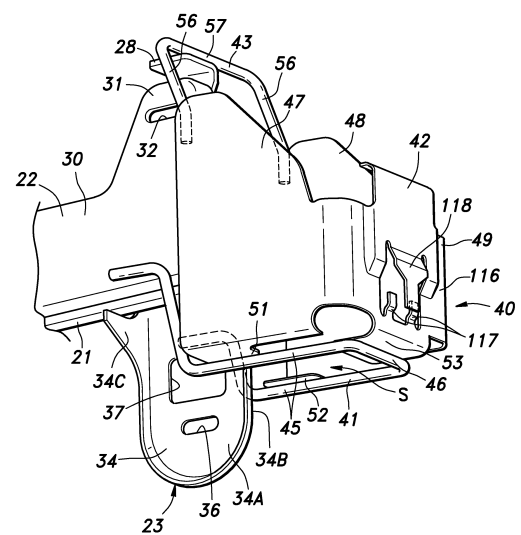
【図 2】



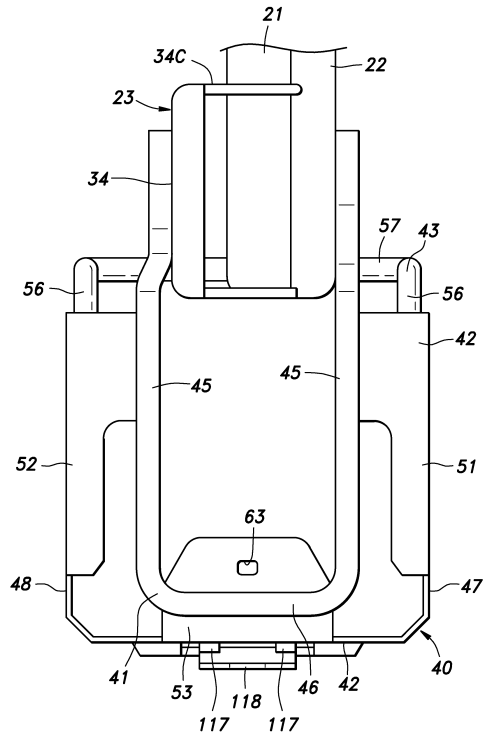
【図 3】



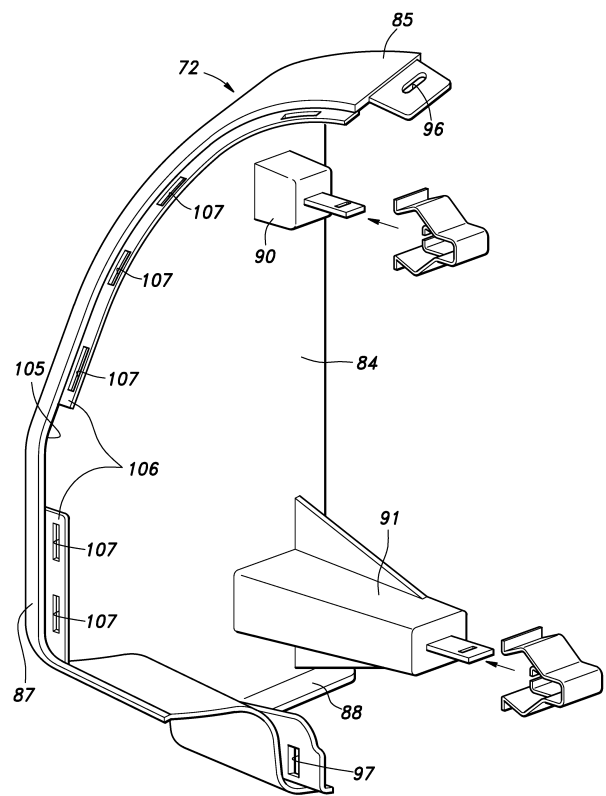
【図 4】



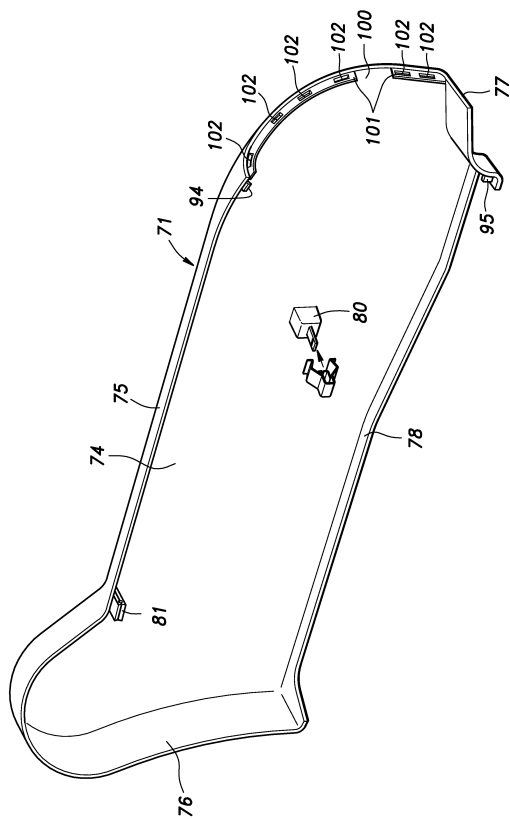
【図 5】



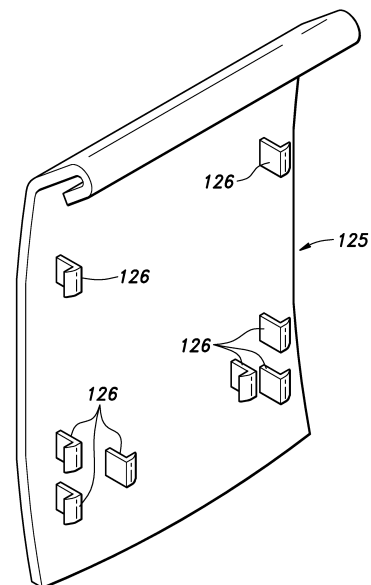
【図 6】



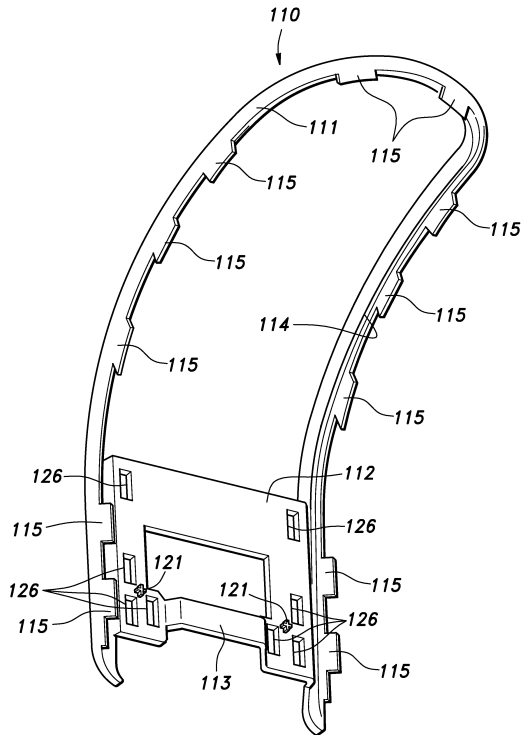
【図 7】



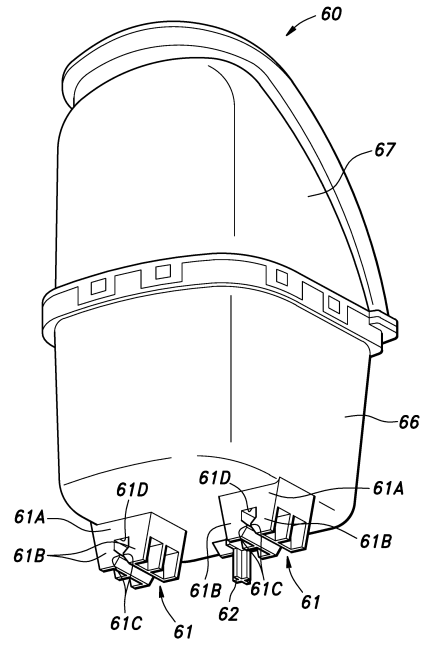
【図 8】



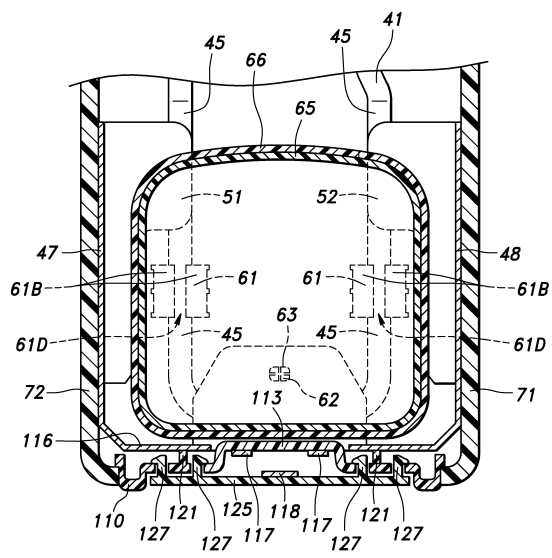
【図 9】



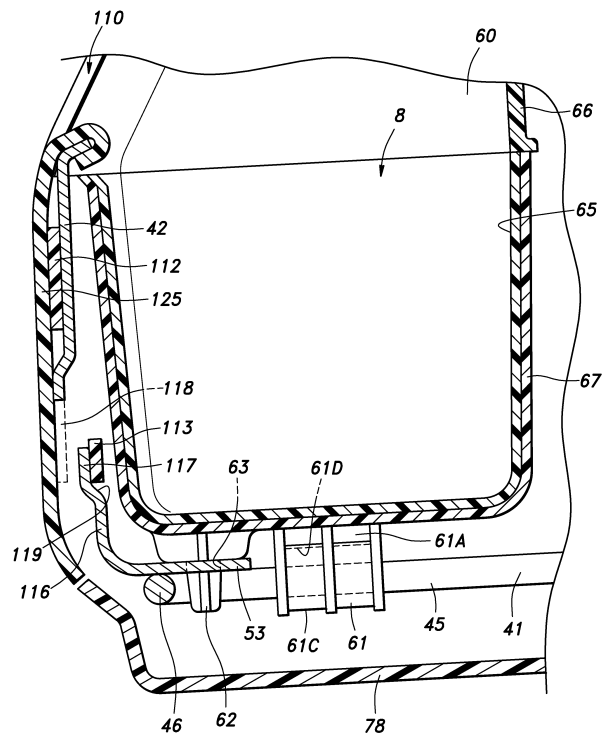
【図 10】



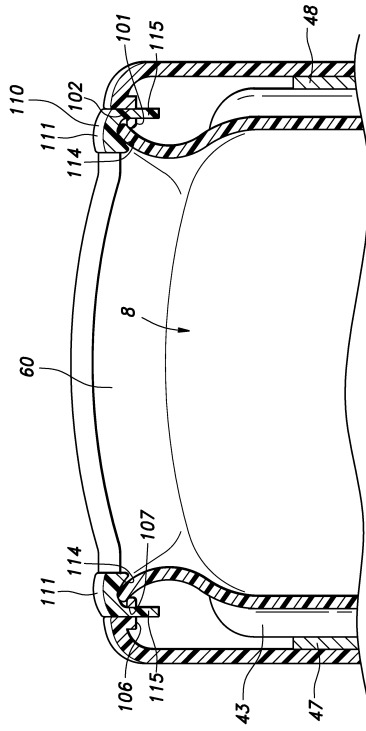
【図 11】



【図 12】



【図 13】



フロントページの続き

- (72)発明者 古田 将也
栃木県塩谷郡高根沢町大字太田 1 1 8 番地 1 テイ・エス テック株式会社内
- (72)発明者 斎藤 翔子
栃木県塩谷郡高根沢町大字太田 1 1 8 番地 1 テイ・エス テック株式会社内
- (72)発明者 バク ヒヒョク
栃木県塩谷郡高根沢町大字太田 1 1 8 番地 1 テイ・エス テック株式会社内

審査官 松江 雅人

- (56)参考文献 特開 2 0 0 7 - 1 1 8 7 5 7 (J P , A)
中国実用新案第 2 0 2 3 1 9 9 8 3 (C N , U)
特開 2 0 1 4 - 4 8 7 1 (J P , A)
特開 2 0 0 9 - 2 1 4 7 9 8 (J P , A)
独国特許出願公開第 1 0 1 2 0 2 0 1 (D E , A 1)
特開 2 0 1 4 - 1 9 8 4 9 0 (J P , A)
実開平 5 - 1 9 1 3 6 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

B 6 0 N	2 / 9 0 , 3 / 1 0
B 6 0 R	7 / 0 4
A 4 7 C	7 / 6 2